

“孫心”こもった弁当届ける

津山商高生手づくり

城北地区 高齢者94人“笑顔”

一人暮らしのお年寄りに食べてもらおうと、津山商業高校（山北）の生徒たちが13日、「手づくり孫心（まごころ）弁当」と名付けた昼食をこしらえ、城北地区の84歳以上の高齢者94人に届け、喜ば

れた。歳末たすけあい募金を活用し毎年この時期実施。3年生（183人）がアイデアを出し合い、高齢者の好みに合うよう栄養のバランスや食べやすさに配慮した献立を考案。地域

ビジネス科の32人が家庭科の授業で「サケの塩麴（こしょうじ）や「ホウレンソウのゴマあえ」「豆腐と野菜入り蒸し卵」など9品を調理した。できあがった料理を

弁当用トレーに彩り良く詰め、「いつまでもお元気で」などのメッセージカードを添えて同地区の民生委員の案内で各家を訪問。沼の男性（87）宅を訪れた川田杏美さんと牧野匡宏さんは、「真心込めて作ったので食べてください」と弁当を手渡した。男性は「毎年楽しみにしている。ゆっくりと味わいたい」と笑顔。2人は「軟らかく煮たり、薄味にするよさ気をつけた。喜んでもらえてよかった」とうれしそうに話していた。



「孫心弁当」を手渡す津山商高生徒